

シネマから学ぶ 生きた法律「その2」

坂和章平

1 はじめに
○二年六月の「SHOW EY シネマーム」の出版に始まった私の映画評論は二年二月末で二九冊、収録本数は約二〇〇本になった。シドニー・メット監督の「十二人の怒れる男」(五七年)はシネマから学ぶ生きた法律の古典的なベスト教材だが、法廷モノ映画の名作をフォローすれば、次々と興味深い教材が増えている。司法制度改革の遂行によって〇九年に始まった裁判員制度は一定着したのが、法科大学院制度は頓挫しその統廃合問題が現実となった。今、ガラリと発想を変え、これらの新教材から生きた法律を学ぶ必要がある。そこで今回は、シネマ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

と。本人も弁護士志望だったというマシュー・マクノヒューは「評決のとき」(九六年)で白人至上主義団体KKKの妨害にもめげず被告人のために信念を貫く新進の弁護士を演じ、ポール・ニューマンの再来と言われたが、役柄とはいえ変われば変わるものだ。ミックの得意技は「司法取引」。これは検察官との取引によって依頼者＝被告人に罪状を認めさせたり、より重要な犯罪の捜査に協力することの見返りとして、減刑や起訴の取り下げをさせること。日本には存在せず、罪状認否の制度を前提とした英米法特有の制度だが、米国では起訴事件の八割がこれで終了していると言われている。「俺はハメラれた。無罪だ」と訴える御曹司ルイスの着手金は一〇万ドルというから恐れ入る。日本ではかつて弁護士はカッコいい職業の代名詞だったが、まずはその今昔の対比、日本の対比を確認したい。

(2) 本作のキーワードは「秘匿特権」。これは弁護士が職務上知り得た依頼者の秘密を保護する権利と義務のことだ。医師、患者間や牧師・信者間のそれと類似する概念で、日本では弁護士法第二三条が「弁護士は、その職務上知り得た秘密を保持する権利を有し、義務を負う」と定めているが、米国では「ダブル・ジョバディー」(九九年)は、アメリカ合衆国憲法修正第五条が定める「二重処罰の禁止」すなわち「人は同一の犯罪で二度処罰されることはない」をテーマにした名作だった(シネマ①③⑧頁)が、本作は秘匿特権をめぐるリーガル・サスペンス。本作のポイントは、なぜルイスがミックを弁護士に指名したのかということだ。ミックは数年前の司法取引によってある依頼者を死刑から終身刑に減刑させていたが、今回の弁護活動の中でその真犯人がルイスではないかという合理的な疑いが生じたら？スリリングな展開の中でそんな真相が明らかされてくる。ミックの前に立ちちはだかるのが秘匿特権の壁だ。ミックが語る親父の口癖は、「無実の依頼人は恐ろしい。刑務所送りにしてしまったら一生後悔する。容認できる評決はただ一つ無罪」。命を張って秘匿特権の壁に立ち向かうミックは、本当は真面目な人権派弁護士かも？

3 「コネクション マフィアたちの法廷」(〇六年)から学ぶ、弁論術と証人尋問能力(シネマ②①⑦②②頁)シドニー・メット監督は一年四月に亡くなった

が、彼にはマフィアを裁く史上最大最長の法廷を描いた名作もある。この映画だ。日本では①日本共産党を弾圧した一九二八年の三・一五事件、②高橋和巳の小説「邪宗門」で描かれた一九三五年の第二次大東事、③一九六九年の東大安田講堂事件の活動家、本件について「統一公判」が実施されたが、米国でも一九八七年に被告人二〇人、容疑七六件の統一公判が実施された。一九九九年に鳥取地裁で審理が始まった上田美由紀被告による「連続不審死事件」の公判は予備日を含めて二五回。週に三、四回のペースで裁判員の在任期間が五日間で、過去二番目の長さになる見通しだが、マフィアの統一公判は何と六二七日間。二人の陪審員は大変だ。本作の見どころは、断断として司法取引を拒否し、「弁護士なし裁判」を断行するマフィアのボス、ジャッキーの弁論術と証人尋問能力。彼は裁判はズブの素人であることを自認したうえで、法廷を笑いの渦に巻き込んだり、どぎつい言葉遣いで証人を威嚇したりしたのが、その反対尋問は味がある。マフィア社会におけるファミリーの結束の固さは「ゴッドファーザー」(七二年)等で実証済みだが、自己犠牲も辞さないファミリー愛を露した彼の最終弁論には陪審員もしみみり。こりや法曹関係者は必見、裁判員の

教材にも最適だ。
4 韓国初の本格的法廷サスペンス「依頼人」(二一年)から学ぶ、あつと驚く最終弁論(シネマ②①八四頁) 韓国では民主化を目指す盧武鉉(ノ・ムヒョン)政権の意向を受けて、〇八年から「国民参与裁判制度」が施行された。これは、殺人や強盗など重大犯罪を対象とするなど日本の裁判員制度と共通する点もあるが、大きく異なるのは被告人が国民参与裁判官の選出に大きな役割を選択できること。死体なし、凶器なしの事実から、妻殺しの重罪でハンを起訴したアンの検事は自信満々。他方、弁護士の多くが嫌う国民参与裁判官を選択した一匹狼のキャラのカン弁護士は、無罪獲得のためかなり無茶な調査活動にも挑戦。証人の証言の価値を互いに減殺し合う中で迎えた検事の論告は、立証の困難さを率直に認めたくえで本件の有罪立証は十分だというオーストッドクスなものだが、最終弁論の演出は超異例「レインメーカー」(九七年)におけるマッド・デューモン扮する若きルーディ弁護士の最終弁論は、白血病患者の生前の姿をスクリーンに映し出し彼自身に語りかけるもので、陪審員の人間としての心に訴えたものだった(「法苑」NO. 一一八・

一四頁)。また、「評決のとき」におけるジェイク弁護士との最終弁論は法律論を一切カットし、「目を閉じて私の話を聞いてほしい」と切り出し、「少女がレイプされた。悲惨な状況だ。よく頭の中に描いてほしい」とハートに語りかけるもので、陪審員一人一人にその状況を想定させるもの。そして最後に、「そして...その少女は白人でした」と結ぶものだった(「法苑」NO. 一二四・七頁)。しかし、カン弁護士との最終弁論は「私が三つ数えて合図すれば、法廷のドアを開けて殺さなくてはならない妻が登場してくるから、陪審員の皆さんはそれに注目してください」と述べ、1...2...3と数え始めるもの。このパフォーマンスタに従ってドアに注目した陪審員は「ひよっとして...」と考えたことになる。つまりそれは妻が殺害されたことについて合理的な疑いを抱いたはずだから、必然的に犯人は無罪になるわけだ。陪審員は全員そして検事を含む法廷内の人々もたった一人の例外を除いてドアに注目したが、さてこのドアから殺されたはずの妻は登場してくるのか？そして、たった一人の例外とは一体誰？

5 「終の信託」(二二年)から学ぶ「安楽死」(シネマ②①九〇頁)
「それでもボクはやってない」(〇六年)(シネマ②①七四頁)で痴漢冤罪事件をテーマとして日本の刑事裁判の問題点に切り込んだ周防正行監督が、今度は医師による延命治療の中止＝安楽死という社会問題に挑戦！本作は「海を飛ぶ夢」(〇四年)(シネマ①九七頁)「モリオンタック」(〇四年)(シネマ①九七頁)「二二二頁」に続く絶好の教材だ。終の信託とは、命の終わりを信する者に託すること。心肺停止状態に陥った患者の命がある限り医師として延命治療を続けるのか？それとも患者の懇願を受けて延命治療中止の決断を下すのか？それを託された女医の揺れる心と決断は？本作の見どころはラスト四五分間の検事による女医の死事件の横浜地裁判決で明示された①耐えがたい肉体的苦痛、②死期への切迫、③代替手段なし、④患者本人の意思という四つの要件がポイントだが、密室の中で硬軟織り交ぜて展開される取調べは迫力満点。映画史上に残るそんな名シーンの中で導き出される「自己」とは？〇一年の大阪地検特捜部主任検事証提進まん事件を契機として「取調べの可視化」の流れが進む今、

こりや必見！
6 この名作、あの名作から学ぶ臓器移植(シネマ②①九〇頁)
「タイで行われているという臓器移植を目的とした幼児の人身売買や幼児売春を描いた栗石の社会派小説を映画化したのが阪本順治監督の「間の子供たち」(〇八年)(シネマ②①五三頁)。主人公はその取材で特ダネを挙げようとする新聞記者(江口洋介)だが、注目は臓器移植に反対するNGO活動に従事する若い女性(宮崎あおい)と何となく我が子に心臓移植手術を受けさせたい商社マン(佐藤浩市)夫妻との激論。あなたはどちらの主張に軍配を？マフィアの妨害をはねのけての命がけの取材も興味津々だが、まずは問題提起の重さを確認したい。また本作では、衝撃的な冒頭とラストの映像に注目！
(2) 〇九年八月三〇日の衆議院議員総選挙による政権交代の直前の自公政権下の、「年齢を問わず、脳死を一律に人の死とし、本人の書面による意思表示の義務づけをやめ、本人の拒否がない限り家族の同意で提供できる」とする改正臓器移植法が成立した。これは臓器移植法が九七年に成立したにもかかわらず、

が、実は某病院には八九年に脳死肝移植を施行する医師がいた。殺人罪で起訴されるかもしれないリスク覚悟で彼はなぜ？それが現職裁判官でもある大鐘修彦氏の小説を映画化した「孤高のメス」(一〇年)だ(シネマ②①八〇頁)。病腎移植で大問題となった宇和島徳洲会病院の万波誠医師の生きざまとも対比しながら、しっかりとその法的論点を整理したい。
(3) サオ・イシグロの小説を基にした「マリガン、キラー・ナイトレイ」という美人女優二人の共演で映画化したのが「わたしを離さないで」(一〇年)(シネマ②①九八頁)。邦題からは何の映画か全くわからないが、本作のキーワードは「提供」と「終了」。臓器移植には適合するドナーが不可欠だが、厳格な管理下にある寄居宿で子供時代を送った仲良し三人組は一体何のために生まれてきたのか？「アイランド」(〇五年)(シネマ②①三六頁)や「アダムと神の使い 悪魔の子」(〇四年)(シネマ②①〇八頁)は、改革クロール人間をテーマとして生命倫理を真正面から扱った問題作だが、ひよっとして彼女たちは...
(4) 同様のテーマは、キャメロン・ディアスが強い母親像を演じた「私の中のあなた」(〇九年)でも顕著だ(シネマ②①四二頁)。第二子ケイトが白血病の

ため骨髄移植の必要があると判明した時、人工授精までして第三子アナを産んだのは一体なぜ？一歳になったアナが自ら弁護士を立ててケイトへの臓器提供を拒否する裁判をする展開にもビックリだが、弁護士としてそれに応ずる母親の姿とその結末は、衝撃的。法廷での混乱を見事に收拾する裁判官の訴訟指揮を含めて、法科大学院生必見だ。
(5) 白血病の子供に適合するドナー探しのために子づくりに励むという発想の映画は中国にもある。それが「我がらが愛にゆれる時」(左右)①(〇八年)(シネマ②①三三頁)。中国は一人っ子政策から問題はないが、本作のキーワードは「提供」と「終了」。臓器移植には適合するドナーが不可欠だが、厳格な管理下にある寄居宿で子供時代を送った仲良し三人組は一体何のために生まれてきたのか？「アイランド」(〇五年)(シネマ②①三六頁)や「アダムと神の使い 悪魔の子」(〇四年)(シネマ②①〇八頁)は、改革クロール人間をテーマとして生命倫理を真正面から扱った問題作だが、ひよっとして彼女たちは...
(4) 同様のテーマは、キャメロン・ディアスが強い母親像を演じた「私の中のあなた」(〇九年)でも顕著だ(シネマ②①四二頁)。第二子ケイトが白血病の

は？本作は九七年に新刑罰法が施行される狭間で車二台を盗んだ男に死刑判決が下されるかどうか問題となった笑話に、臓器移植のテーマを絡めたところがある。法治社会を目指す中国の実情を学ぶにも格好の教材だ。
7 その他
(1) 「0(ゼロ)からの風」(〇七年)は、〇一年以降の危険運転致死傷罪の新設と飲酒運転の厳罰化を学ぶうえで必見(シネマ②①四四頁)。他方「帰らない日々」(〇七年)を観れば被害者側のみならず加害者側に生まれる悲劇も実感でき、飲酒運転撲滅の決意が強まるはず(シネマ②①三三頁)だ。本作は加害者が弁護士だったこと、警察不信を募らせた被害者の父親から彼がひき逃げ犯捜しの依頼を受けるところがミソ。真犯人がわかっていると、銃社会の米国では？
(2) 凄かなえの原作を松たか子主演で映画化した「告白」(一〇年)は衝撃作(シネマ②①五五頁)。当初三分間も続く衝撃的な告白が序章に過ぎなかったのは「二転三転する展開に翻弄された挙句、ラストにこんな結末が待っている」とは天才・中島哲也

監督の見事な演出に拍手だが、共犯理論や共謀共同正犯と間接正犯という刑法的視点を持っては、さらに興味深い映画になるはずだ。また、「八日目の蝉」(一年)は水作博美、井上真央、小池栄子など豪華女優陣が紡ぐ「母性」をテーマにした物語(シネマ②①九五頁)。一一年度日本アカデミー賞を席巻した本作がきつと役に立つはずだ。西田敏行演ずる幽霊をいかにして証言台に？その主尋問と反対尋問のやり方は？その証言価値は？それをしっかりと押さえたい言葉もあるが四歳の子供の誘拐は立派な未成年者略取誘拐罪。本作ではそんな法律論を前提としたうえで、生々しい人間ドラマを楽しませ、産む産まないを軸としたラストの決断に注目したい。
(3) 高橋伸明監督の「BOX 袴田事件」とは、「一〇〇年」が裁判員制度施行一年のタイミングで公開されたのは意義が大きい(シネマ②①四〇頁)。主任裁判官として自己の良心に反して、「合議」の結果論に従って死刑判決を書かざるをえなかった裁判官の苦悩とは？退官後も一方当事者の立場に立った活動を通じた彼の真意とは？約四〇年前の袴田事件の検証を通じてあらためて今、裁判員制度のあるべき姿を検証すべきだ。
(4) 裁判モノは難解すぎるからエンタメには向かない。そんな考えのあなたには、三谷幸喜監督・脚本

の「ステキな金縛り」(一一年)がお薦め(シネマ②①九一頁)。弁護士(深津絵里)、検事(中井貴一)、裁判官(小林隆)のキャラも面白いが、法的論点は幽霊の証人適格？なんじゃそれ！証人尋問は法廷の華だが、法科大学院で教えるのは難しい。そんな時本作がきつと役に立つはずだ。西田敏行演ずる幽霊をいかにして証言台に？その主尋問と反対尋問のやり方は？その証言価値は？それをしっかりと押さえたい言葉もあるが四歳の子供の誘拐は立派な未成年者略取誘拐罪。本作ではそんな法律論を前提としたうえで、生々しい人間ドラマを楽しませ、産む産まないを軸としたラストの決断に注目したい。
(3) 高橋伸明監督の「BOX 袴田事件」とは、「一〇〇年」が裁判員制度施行一年のタイミングで公開されたのは意義が大きい(シネマ②①四〇頁)。主任裁判官として自己の良心に反して、「合議」の結果論に従って死刑判決を書かざるをえなかった裁判官の苦悩とは？退官後も一方当事者の立場に立った活動を通じた彼の真意とは？約四〇年前の袴田事件の検証を通じてあらためて今、裁判員制度のあるべき姿を検証すべきだ。
(4) 裁判モノは難解すぎるからエンタメには向かない。そんな考えのあなたには、三谷幸喜監督・脚本

17

18